

授業科目名	【Gカリキュラム】 教養演習Ⅰ・Ⅱ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	選択履修	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目／【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	スポーツと運動トレーニング	担当者	酒本 夏輝			
授業概要	<p>【概要】 スポーツ生理学の基礎理論・実験を通してスポーツと生理機能の関係を学ぶ。本演習では受講者の興味・関心に沿って研究テーマを設定し、文献研究、問題提起、実験、解析、結果の考察を行い、研究内容の発表・討論という研究活動に触れる。</p> <p>【到達目標】 スポーツ生理学に関するテーマを題材とし、主体的に調べたことを基に論理的に考え、それを他者に分かりやすく伝え、議論するための基礎を修得する。</p>					
履修条件	履修の前提条件として、履修意欲があり、主体的に学ぼうとする姿勢のある者とし、教養講義（運動生理学）、教養演習Ⅰ（野外実習）、教養演習Ⅱ（シーズンスポーツ）の単位取得者を優先する。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に指定しない</p> <p>【参考書】 スポーツ現場に生かす運動生理・生化学</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>①：オリエンテーション（演習の概要説明） ②～④：スポーツ生理学の基礎理論Ⅰ（習慣的運動および運動トレーニングと生理機能） ⑤～⑦：スポーツ生理学の基礎理論Ⅱ（一過性運動および運動トレーニングと生理機能） ⑧～⑩：スポーツ生理学の基礎実践（有酸素運動とレジスタンス運動） ⑪～⑬：スポーツ生理学を現場に生かす～応用理論Ⅰ ⑭～⑯：スポーツ生理学を現場に生かす～応用理論Ⅱ ⑰～⑱：研究テーマのグループ分け、文献研究（グループワーク） （例1）スポーツ競技パフォーマンスに対する生理機能、精神機能の影響 （例2）習慣的な身体運動が生理機能、精神機能に及ぼす影響 ⑲～⑳：研究テーマ別の実践、検討、結果の考察 ㉑～㉒：研究発表会資料作成（発表スライド、ポスター、説明資料） ㉓～㉔：研究発表会</p>					
予習復習内容	<p>【予習】シラバスの確認。スポーツや運動トレーニングと生理学の関連を検索。 【復習】本演習で得た知識が実際のスポーツや運動トレーニングにどのように活かすことができるのか考えをまとめる。</p>					
評価方法	授業態度（30%）、研究発表（70%）として総合的に評価する。なお、無断欠席や出席状況が悪い場合はマイナス評価とする。					
評価基準	出席状況、授業態度、研究発表に基づき、上記授業内容について、概略を理解できた者については「C」とし、概略に基づき実践できた者については「B」、さらに、概略や周辺領域の知識に基づいて、独創的もしくはより質の高い実践方法を表現出来た者については「A」とする。授業内容についての理解自体が不十分な者については、その程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	<p>清和大学受講心得に反して授業を妨げる場合は即退室を命じ、以降の受講を認めない。</p> <p>※Gカ：法【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】スポ【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】情【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】 ／EFカ：法【選択必修（γ）】スポ【選択必修（γ）】経【選択必修（γ）】</p>					